

開講学科		前橋工科大学 シラバス			
科目名	日本建築史	標準対象年次	選択／必修	科目コード	
		3年次	選択	———	
担当教員	非常勤講師	単位数	学期	曜日	時限
		2	前期		集中
授業の教育目的・目標	<p>日本建築の展開をたどり、日本人が時代、社会と思想、居住環境、都市と建築の関係をどのように築いてきたかを検討し、これからの建築について考える基礎を構築する。</p> <p>① 日本においては、時代背景や社会の仕組みからの要求に、建築はどのように応えてきたのかについて検討する。</p> <p>② 建築理念が、どのように設計や建築物、また居住環境や都市に実現されていったか、その過程で何が大切に考えられたかについて検討する。</p> <p>③ 日本においては、伝統と現代の関係がどのように捉えられるべきか考える。</p> <p>④ 建築家の果たすべき役割、負うべき社会的責任について考える。</p>				
学科の学習・教育目標との関係	建築史の学習を通じて、建築的課題と建築家の志向、社会と建築家の関係、デザインと理念の関係を学び、実際の建築活動の基礎を養成する。				
キーワード	日本建築史、日本近代建築史、建築家、建築物、設計、建築理念、日本				
授業の概要	<p>本学の建築史は「建築史（近代建築史）」ならびに、「日本建築史」、「西洋建築史」から構成される。日本建築史は日本における建築の流れを対象とする。日本の建築は、明治時代に入ると、欧米の建築を含めた文化全般の影響を受けて大きく変容した。日本建築史は、先史時代から江戸時代にかけて培われた、いわゆる伝統的な日本建築の流れを主題としている。建築様式の時代的変遷を基礎としながら、建築のジャンル、建築と材料、建築と自然、都市形成など、建築を構成する諸要素に着目し、日本建築を捉え直す。こうした伝統にもとづき、欧米の影響を受けつつ展開された明治以降の日本の近代建築も範囲とし、現在における建築創造に応えうる知識を修得する。</p>				
授業の計画	<p>第1回： 明治時代までの日本建築の流れと、その変化の要因</p> <p>第2回： 神社建築にみる建築を構成する意識の変化－ i</p> <p>第3回： 神社建築にみる建築を構成する意識の変化－ ii</p> <p>第4回： 仏教建築にみる建築を構成する意識の変化－ i</p> <p>第5回： 仏教建築にみる建築を構成する意識の変化－ ii</p> <p>第6回： 住宅建築の流れ－ i</p> <p>第7回： 住宅建築の流れ－ ii、民家建築－ i</p> <p>第8回： 民家建築－ ii</p> <p>第9回： 日本の都市と都市の生活－ i</p> <p>第10回： 日本の都市と都市の生活－ ii</p> <p>第11回： 茶室建築と城郭建築</p> <p>第12回： 日本建築と庭園</p> <p>第13回： 日本の近代建築－ i： 西洋建築の摂取</p> <p>第14回： 日本の近代建築－ ii： 西洋建築の学習と近代建築との遭遇</p> <p>第15回： 日本の近代建築－ iii： 西洋建築と近代建築の昇華</p>				
受講条件・関連科目	<p>受講条件： 建築史、西洋建築史</p> <p>関連科目： 建築史、西洋建築史、建築学科の建築史Ⅳ</p>				
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定する教科書はないが、毎回講義にあわせプリント資料を配布する。</li> <li>講義のほぼ半分は、パワーポイントを使用し、視覚的に理解できるように配慮する。</li> <li>講義の最後に、10回ほど簡単な小レポートを課し、講義内容の理解度を深める。</li> <li>期末にレポート課題を与え、そのレポートと講義内での小レポートと総合的に判断し評価する。</li> </ul>				
テキスト・参考書	<p>参考書：日本建築様式史（太田博太郎監修、美術出版社）、日本建築史（後藤治著、共立出版）、建築の歴史（藤井恵介他著、中央公論新社）</p>				

成績評価	・試験 ( %)・レポート ( 60 %)・その他 ( %)・小テスト ( 40 %)
履修上の注意	小レポートも評価の対象とし、出欠のチェックもかねる。 予習、復習は必要ないが、各回ごとに理解することが必要である。